

三ニガイド

〈なまえ〉 弥栄之郷(やさかのさと)共同体

〈ところ〉 島根県那賀郡弥栄村太字三里は-38

〈あし〉 山陰線浜田駅下車(あるいは広島から広電バス・国鉄バスで浜田へ)
浜田から石見(イワミ)交通バス、宍城(ヤスキ)行終点下車
有線電話12の9(バス停近くの雑貨屋を借りて下さい、79%です。)を呼
び出せば、そこまで迎えに行きます。

〈ひろさ〉 山林1ヘクタール、畑地5反、水田1ヘクタール(畑に転用)、
水田1反5畝

〈できるもの〉 シイタケ、タマゴ、米、豆類、キャベツ、じゃがいも、さつまいも
ニンジン、ゴボウ、ナンキン、タマネギ、白菜、大阪白菜、広島菜、小
松菜、ナス、ピーマン、ネギ、トウモロコシ、タケノコ、レタス、キュ
ウリ、山東菜、ムギ、ナドナド

〈いまのめんばあ〉 11人(男6、女5)+イヌ1匹+にわとり150羽

〈おてんき、そのほか〉

典型的な山陰型の気候で、外界(?)より常に10℃は気温が低い。夏は
しのぎやすいが、冬・特に1・2月は1メートル〜2メートルは雪がつも
豪雪地帯で、スキーをすることも可能です。雪がふるといってもヌルド
ーザーで除雪するため、孤立することはめったにありません。しかし
弥栄村-その中でも共同体のある横谷部落は、日本でも有数の過疎率の
高い村で、その意味では日本の農村のかかえている問題がすべて露見し
ているといえます。しかし皮肉にも弥栄村の過疎化の激しいことが逆に
弥栄之郷共同体のその地にある意義をあり、今後の発展・拡張の可能性

〈P 5〉

にも関係しています。



くなまえ > こむうな塾

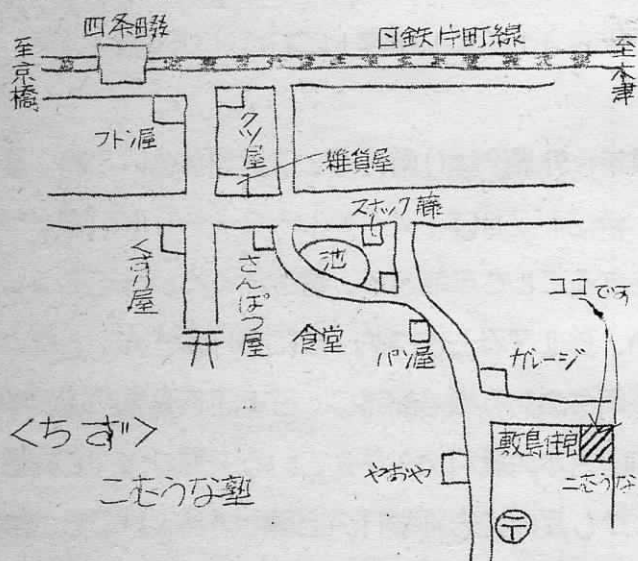
<ところ> 大阪府四條畷市南野1379-3

<あし> 国鉄環状線京橋駅から片町線(国鉄)で四條畷駅下車徒歩15分
シジョウナワテ

<たいしょう> 中学1~3年

<いまおしえているかもく> 数学、英語、社会(地理・歴史)

<ひとこと> まず、子供たちを前にして、直接語りかけるところから始めようと、



もつかしい話は後にしてしやにむにやり始めました。

「先生、なんで学校の先生にならへんのん?」「うん、学校やったら点数つけなあかんし、こう教えなさい、て言われるし、それがいややから。」「ふうん、先生は自由な教育がしたいんやな。」満足したような目で笑む子供がいます。

弥栄之郷共同体

やさかのさと

そのあゆみ(「史」)

〈共同体前史〉 1971年3月、われわれの共同体運動は、岡山県阿哲郡、備北開拓にはじめて産ぶ声をあげました。その後、数回の労働キャンプを通して共同体の建設を目指しましたが、その土地が個人の私有地であることが決定的に影響して備北開拓を離れることになりました。備北開拓での一年余は、われわれにとって共同体を産みだすための胎動期であり、また、そこでの経験を批判的に踏まえて共同体を創りだすための〈共同体前史〉として、多くの教訓を与えてくれました。

〈いざ・しゅっぱ〜つ〉 1972年7月、島根県那賀郡弥栄村に最初の共同本地をみつけ、四人の仲間が注みこみ、弥栄之郷(やさかのさと)共同体が発足しました。7月8日と、スウェーデンからの、S.C.I.(国際市民奉仕団)のボランティア、ベン君が参加し、弥栄之郷共同体は最初からインターナショナルな雰囲気の中でお発しました。

8月13日~15日に 弥栄での初めてのキャンプを計画し、弥栄之郷共同体を今後どのように運営し、どのような活動をしていくかを話し合いました。夏休み後半には高校生キャンプを行ない、節会の子が初めての農作業に汗を流しました。

〈無度おなじみ、共同体直販です〉

1973年3月15日~4月10日 弥栄之郷で初めての労働キャンプを開き、アメリカ人を含む36人の参加者がありました。キャンプでは 3000本のシイタケの植菌、鶏舎の建設、排水掘りなどの作業がダイナミックに進められました。この時キャンプに参加した人の中から2人が新しく共同体のメンバーとして常駐することになりました。

4月29日~5月5日 連休を利用してのキャンプを開きました。10数人が開墾や農作業に汗を流しました。

6月から広島市内での直販活動を始めました。広島消費者協会との提携により

〈P.T.〉

牛田地区の三つの団地で青空市場・個別訪問方式による直販活動を始めました。ジャガイモ、玉ねぎ、レタス、キャベツ、小松菜、赤ダイコン、シイタケ等の共同体で穫れた野菜類が週一回のペースで弘島の消費者に定期的に供給されはじめました。売り上げも少しずつながら伸び、共同体も直販でどうにか自給できるようになりました。

また、このころNHKテレビと 弘島テレビの二局で弥栄之郷共同体が紹介されました。

＜村のコミュニケーションを目指して＞ 7月20日～9月10日 2ヵ月間にわたって夏の労働キャンプが開かれ、約50名の人が全国各地から弥栄に集まり、共同体の人口は今までなかったほどに膨れあがりました。共同体では今まで納屋に使っていた建物をキャンパー用の部屋に改築しました。

このキャンプで「共同体キャンプ」の形式が確立したようです。キャンパーは共同体のメンバーと一緒に共同体の生産活動・直販活動・日常闘争のすべてに関ることによって、弥栄之郷共

同体を深く理解できたことと思います。そんなこともあってか、キャンプを終った時、6人の新しい共同体のメンバーが増えました。

7月ごろから共同体は、部落の農民に対して直販活動への積極的な参加を働きかけてきました。最初、二・三軒の近くの農家が参加しているにすぎなかったのが、直販が終る11月には、部落4軒のほとんどが出荷するようになりました。共同体は定期的に部落の農家に話し合いに行きます。「カマの穂」という部落向けの新聞も定期的に発行しています。このような活動を通じて、農村のコミュニケーション、共同化の試みを模索しています。

11月から 弥栄村ではチラチラ雪が降り始め、農作業はできなくなります。共同体では鵜の笛に一人を残し、他は「出稼ぎコミュニケーション」と称し、大阪で出稼ぎをしています。春、雪どけとともに弥栄村に戻っていきます。

74年から、別の部落に「オニ弥栄共同体(仮)」を発定させ、また弘島に「共同体直販センター」を出発させて、都市に根付いた直販体制をとることになりました。

四つの闘争方針

1. 農村のコムニオン化 — 村落共同体(ムラ)の復権とその闘い
2. 生きのびるための都市の闘い — 反公害闘争・生活自衛闘争
3. 自前の流通体制の確立 — 反資本闘争として
4. コムニオン戦士(共同体志願者)の養成 — 労働教育・生活教育・共同体教育・自己変革の学校として

その1 ムラ、その復権

われわれ弥栄之郷共同体がこの一年間
依頼してきた位相から今のわれわれには、
農業問題というより農民或いは農村とい
うものが、われわれのコムニオン運動に
とってより普遍的なものとして視えてく
るようになった。すなわちわれわれが共
同体運動を通じて追求しているものは、
コムニオンとか革命とかの干からびたモ
タニズムの概念を外部注入的に実現しよ
うとするのではなく、かつて村落共同体
(ムラ)が持っていた共同性と自治性と
平等性と反権力の芽を、現代社会の中に
復権させることであるとする。また、
農耕文明を基調として発展してきた現代
社会では、農村だけでなく都市にあって
も、村落共同体(ムラ)の精神が、日本

人の精神構造に地下水のごとく脈々と流
れている。日本人の原像としての農民像
を、われわれは否定することはできない。
これを射たなくて、何を射つのか。

現代社会の抑圧性と権力性は、村落共
同体(ムラ)を崩壊することから始まっ
たと言っても過言ではない。われわれは
あえて断言する。村落共同体(ムラ)は
闘いうる。村落共同体(ムラ)こそ闘い
うる。

われわれがコムニオン運動という長い
旅路に出発したときから、<常駐者たち>
と名付けられた数人のわれわれで創りだ
す家族のありようには、さほど大きな興
味をもっていなかった。コムニオンとい
うことばの持つ地理的・空間的、或いは
行政的意味あいすらこめた運動を考へる

とき、われわれの〈コミュニティ〉には、
弥栄村800世帯が、もっとも現実的には
横谷部落24世帯が、向きりも想起される。
例えばわれわれが〈共同体直販〉という
名で始めた直販活動にしても、そこでい
う〈共同体〉は弥栄之郷共同体をさすの
ではなく、横谷部落24世帯の不可視のム
ラをさすものとして位置付けている。

高度資本主義の道を突っぼしる今の日
本の社会にあって、農民はひとつの階級
としての、被抑圧性を共有する悲劇の舞
台にある。その共同運命性は、農民がム
ラとムラの持つ自治性を復権させること
を余儀なくさせている。そしてさらには、
ムラがムラであろうとすると、避ける
ことのできない権力との闘いがあること
を予知するのである。

その2 反公害・生活自衛

農村を拠点にして運動を展開している
われわれにとって都市との関わりは、直
販活動を通じて行なう以外に多くの機会
はない。そのためにある種の限界がつきま
とうことは避けられない。われわれが弥
栄之郷共同体から都市あるいは都市の消
費者を見たとき、自らの立場を生産者と

して確認せねばならない。例えば、われ
われは直販活動を通じて生産者として都
市の消費者に対し何ができるかという点、
今まで具体的に見えてきた点でい之ば、
①無農薬野菜の供給による反公害闘争、
②安価な農作物を共同購入するというこ
とを契機にした消費者協同組合の可能性
の追求があげられる。しかしこの種の都
市での運動は、都市だけの運動として
はありえない。無農薬野菜の問題にしろ、
安定価格の問題にしろ、契約生産・契約
販売の問題にしろ、都市と農村・消費者
と農民が同じ利害の上に立つことを前提
としてはじめて成立することである。そ
れゆえ生産者としてのわれわれの、都市
に対する向きかけは、直販活動を通じて
〈都市—農村連合〉或いは〈消費者—農
民連合〉の産姿役を務めることである。

その3 自前の流通機構

本来流通とは、生産者と消費者の間の
ある種の信頼関係がキズスとなって需給
関係が成立し、物が流れることを意味す
るものである。しかし今日あるそれは、
資本の増殖のためのものであり、物が人
間を支配し、生産者と消費者の関係を敵

対関係に陥しめるものでしかない。

米の食糧管理制度の廃止の方向に見られるように、主食である米から生野菜にいたるまで、大手商社・大手スーパーによる流通機構の寡占体制は、生産者・消費者を等しく収奪している。われわれはこのような寡占体制に対して、まず裾谷部落24世帯とともに、生産者と消費者の強い連帯と信頼関係を基調とした自前の流通体制を創出することによって、資本が自由に操縦している価格による支配を断とうとするものである。そこにこそ都市と農村を結ぶ視えないコミューンの糸が視えてくる契期があると考える。

その4 コミューン学校

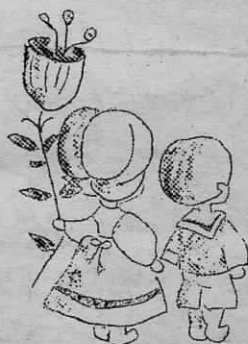
最後になったが、これはわれわれ自身の問題である。われわれは圧倒的に少数であり、圧倒的に未熟である。そしてあらゆる行為は常にその主体が面い返されている。われわれは外的表現としての種々の運動の内的根柢として、われわれの内なるコミューン像を豊饒化せねばならない。

人間の自由・平等・充足等が主観でしかばかりでないとしたら、それぞれの人

間のものさしがどうであるかということが何よりも問題にされる。しかし、人間はこの主観的なものを外化された〈行為〉としてしか追求しえないという本質的な悲劇性を背負わされている。そこでわれわれに何ができるのか。

コミューン学校は、知識のみを与える場ではないし、技術の習得のみを目的とした場でもない。人間と人間との出会い、個人と集団のありよう、そして何よりも自らを新しい人間として鍛え提出する場である。

コミューン学校はそれだけで独立しうるものではない。われわれにとってのコミューンは、動きの中でこそ姿を現わすものであり、コミューン学校の作業もまた陣いの一環としてある。



あなたへのメッセージとして

百人委員会への招待

コミューン百人委員会は つぎのような共同体運動の諸活動を行なっています。
あなたが 可能な時、可能な活動に参加されるよう御案内申し上げます。

- ① キャンプ・・・労働キャンプ、スタディ・キャンプ、トレーニング・キャンプ等を春・夏休みを中心に行なっています。キャンプの具体的なことが決まりましたら、「コミューン・ヒロバ」誌上、ポスター、ビラなどでお知らせしますので、連絡・申し込んで下さい。詳しいこととお知らせします。
- ② 弥栄での生産物の販売・・・弥栄で収穫した卵、農作物を都会へ直送し販売します。主に広島近辺で販売しますが、個人・グループで定期的に販売して下さる方法、直送・販売の計画に参加して下さる方法などがあります。
- ③ 定期カンパ・・・毎月一口500円からのカンパを募っています。共同体運動の経済的基盤となるものですから、百人委員会へ多数申し込んで下さい。
- ④ 共同体共有券運動・・・一口2,000円(30坪相当)の弥栄之郷共同体の土地共有券の販売です。共同体の社会化のため、共同体運動への参加の第一歩として参加して下さい。
- ⑤ 弥栄双書、パンフ類の出版・販売・・・弥栄双書の出版・販売を手伝って下さいませんか。今までに発行したパンフ、取扱っているパンフの販売だけでなく、新しく双書を創っていく作業にも参加して下さい。
- ⑥ 百人委員会集会、セミナー、技術講習会・・・不定期的に各地での集会・セミナー・講習会を開きます。そのつど お知らせします。
- ⑦ コミューン・ヒロバ・・・百人委員会機関紙として月一回発行している「コミューン・ヒロバ」を定期購読して下さい。また、編集・カリ切り・印刷・トジ・発送などの作業をいっしょにやっていただけませんか。

コミュニケーション百人委員会

大阪市東成区玉津二丁目

東成玉津郵便局留

郵便振替 大阪 79064

弥栄之郷共同体

島根県那賀郡弥栄村大字三里

郵便振替 松江 9461

大阪こむうな塾

大阪府四条畛市南野1379-3